令和5年度第3回西成特区構想エリアマネジメント協議会 こども・子育て専門部会 議事要旨

1 日時 令和6年3月15日(金) 午前10時から午後0時まで

2 場所 西成区役所4階 4-8会議室

3 出席者

【有識者】

村上教授(大阪大学大学院)、永橋教授(立命館大学)、水内教授(大阪公立大学)

【地域メンバー】

荘保委員(わが町にしなり子育てネット代表)、川辺委員(NPO法人西成チャイルド・ケアセンター代表)、小林委員(NPO法人釜ヶ崎支援機構)、緋田校長(鶴見橋中学校長)

【西成区】

宇野子育て支援担当課長、森田子育て・教育支援担当課長代理、荒井こども家庭支援担当課長代理

【大阪市】

中村経理・企画課長代理、赤井経理・企画担当係長(こども青少年局)、國方指導主事、中村指導主事(教育委員会事務局)

4 議事要旨

(1) 西成区こども生活・まなびサポート事業について

- ・学習姿勢支援において、ちゃんと学習に向くようになった子どもから意見は聞いているか。一旦は学習して座ることを覚えるが、段々と気持ちを出せるようになると嫌だった思いが出てくる。後に不登校に繋がらないかと心配もある。良い取り組みだが、全体に広げる段階で子供の意見も聞いてみてはどうか。
⇒一緒にやってくれる人がいることで、児童は一緒にやろうとする。スタートとしては大事な取り組みである。児童への聞き取りは困難なこともあるが、校内アンケートなどの活用も一つの方法であると考える。
- ・子どもに対するサポート方法など、サポーターへの研修はあるのか。
⇒学期毎に集合研修を開催し、サポーター間で手法などの情報共有を行っている。
- ・西成区内中学生の不登校率が高い。どのような理由が考えられるか。
⇒一番には進路の不安による例が多い。その他、1年生は学習面の躓き、2・3年生は人間関係のトラブルなどが多くなる。そのため中学生行事に小学生が参加するなど進学後のギャップを軽くする取り組みも行っている。他方では、貧困実態調査において貧困世帯の不登校・遅刻率が高い結果が出ている。躓きの段階で登校するよう保護者が背中を押してあげられるか等もあると思われる。
- ・不登校から復活する時の子どもの気持ちも理解が必要ではないか。学校での過ごし方や、誰と話してよいかも分からないなどで不登校を繰り返してしまう例もあり、来ればいいというものでもない。
⇒適応指導教室で過ごし、学校に居場所があることで最終的に登校できるようになったという好事例もある。何が復活のきっかけになったのか、子どもの声を聞いて追求することも大事であると考える。

(2) 大阪市家事・育児訪問支援事業について

- ・西成区の事業利用世帯は2月末時点で5件。検討中の世帯が3件。検討して繋がらなかった世帯も3件あった。課題としては、支援が必要な家庭は様々な課題のある家庭が多く、支援の受け入れが良いケースは少ない。また、3か月の支援の後に次の福祉サービスに繋げる事も目的としているが、繋ぐサービスと家事・育児訪問支援事業では、制度が異なるため、サービス内容の違いなども伝えながら進めていく必要がある。
- ・事業者は区役所で選定すると聞いているが、地域の支援者はどこに相談すれば繋がるか周知されているか。
⇒要保護児童対策地域協議会などで情報連携している。
- ・事業利用世帯5件はどのようなケースか。
⇒要保護児童対策地域協議会のケースが3件、ヤングケアラー該当が1件ある。父子家庭などもある。
- ・どのような事業者が参入しているのか。
⇒家事支援のための事業者ではなく、介護関係、保育関係の事業者で空き時間にスポットで支援に入れるような事業者が参入している。
- ・利用は原則3か月で延長の判断は区役所にある。支援の終期はどのように判断しているのか。
⇒支援開始後3か月が近づく頃に家庭訪問などで面談し、課題解決等支援の終わりに向け話し合いをし、必要な世帯は支援の延長を決定する。
- ・地域支援者としても事業者と利用者の関係性もあり、繋げていくことが非常に難しいと感じている。相性が良ければ続けてもらえるのだが。

(3) 令和6年度エリアマネジメント協議会 こども・子育て専門部会のスケジュールについて(案)

- ・令和6年度のスケジュールについて説明。
- ・第1回は次年度におけるこども子育て関連施策の説明し意見をいただく。